

現在、南小学校は大きな転換期にあります。この3年間で児童数が100名以上減少するという急激な環境変化を受け、私たちは学校の在り方を抜本的にアップデートしています。また、国の次期学習指導要領に向けた指針では、「主体的・対話的で深い学び」「多様性の包摂」「実現可能性の確保」の3つの方向性が示されました。これからの教育には、ICTを活用し、多様な子どもたちの学びを深化させることが不可欠です。

こうした背景と学校評価を踏まえ、本校では令和8年度の学校教育目標を策定しました。「6つのことをなくす」という決断を通じ、子どもと教職員の双方が「明日がもっと楽しみになる南小学校」の実現に全力を尽くしてまいります。

学校教育目標

自ら学び 思いやりの心を持ち



自立した 児童の育成

目指す学校像 **明日がもっと楽しみになる みなみ小学校**

目指す児童像

みずから学ぶ：

自らのよさや、やりたいことを見つける子ども（自己肯定感）

なかまと繋がる：

誰かの幸せのために行動し、仲間と高めあう子ども（他者理解）

みらいを拓く：

失敗を楽しみ、未来に向かって歩み続ける子ども（レジリエンス）



氷丘南がやめる6つのこと

次期学習指導要領を見据えた、余白を創出した教育課程を編成し、子どもたちに必要な力を限られた時間の中で最大限発揮できる仕組みを地域の皆様とともに考えていきます。

① 教師が一方向的に教える授業をやめる

『正解が1つではないこれからの学びに
協同的探究学習による授業改善』

② 急いで大人にさせる指導をやめる

『させる指導から支える指導』

③ 担任がすべての窓口になることをやめる

『他責思考から自責思考』

④ 校内でゲームをすることをやめる

『外遊びの充実』 『デジタルとアナログのハイブリッド』

⑤ ねばならないをやめる

『大人のマインドセット』

⑥ 山盛りの課題提出（宿題）をやめる

『自ら課題に向かう主体的な取り組み』





令和8年度 重点指導事項

業務の進捗・成果・課題のまとめ

- **情報活用能力の強化:** 「総合」におけるchromebookを活用した情報技術教育を深化し、AI時代を生きる「新しい活用能力」を育む。
- **主体的・対話的で深い学びの実装:** 知識の暗記ではなく、協同的探究学習の理念を理解し、仲間の意見を生かし、日常生活での活用能力を育てる。
- **多様性の包摂と地域とともにある教育:** 『さくら教室』『みなみっこルーム』『なかよし学級』等と連携を図り、子どもたち一人一人に合わせた柔軟な学びの環境整備と、ボランティア（図書・MGB）と連携・協働した教育の推進を目指す。

1. 豊かな心の醸成とホッとできる居場所づくり

- 市いじめ防止対策計画に基づいた**いじめの未然防止**見逃しゼロの推進
- **児童会（計画委員）を主体**にした心のきずなを深める活動の推進
- **ウェルビーイングの向上**と自己肯定感を高める人権教育の推進
- **チーム担任制**の発展・充実（高学年）
- 教育相談・アセス等による児童の困りごとの早期発見対応
- 考え議論する**道徳教育**の推進
- **特別な配慮を要する児童**に応じた教育の推進
- サポートルーム（**みなみっこルーム**）の効果的な運用
- 通級指導教室（**さくら教室**）の効果的な運用



2. 令和の時代を生き抜く確かな学力と健やかな体の育成

- **協同的探究学習**等による質の高い授業づくり
- **MetaMoji**を活用した学びの推進と学習用端末を活用した個別最適な学びの充実
- **情報能力活用力**の向上と情報モラルの育成（協同的探究学習・ICT授業研究会への参加）
- 外遊びによる異学年集団交流による体力づくり（長期休業中**課題の選択制**継続）
- コナミと連携した水泳指導の充実（体力・運動能力の抜本的向上）
- モジュール学習による効果的な学習
- 持続可能な**主権者教育**
- 心にひびく**体験活動**の充実



3. 地域とともにある安全・安心な学校づくり

- **ボランティア**による図書室の整備・緑あふれる校地の教育環境の充実
- 地域ボランティアによる登下校の見守り活動の充実と児童との交流による連携強化
- ホームページ、学校だより等による学校風土の見える化
- MS・SSW・SC・SAなど**教員以外の職員と連携**した取組の充実（民生委員・町内会）
- 校種を超えた連携の充実（保育園・幼稚園・中学校）
- **氷丘地区**へのふるさと意識の醸成



それらを支える 目指す教職員像 はたらき方

- 「**心の余裕**」が良質な教育に 対して 事故・休職1年間ゼロを目指す
- 「**支え合い**」を文化に 対して 組織貢献意欲の高い集団へ
- 「**退勤日**」の常態化 対して 月1回の完全定時・毎週水曜のマイルド定時退勤
- 「**会議30分**」の徹底 対して 事前準備と効率的な進行で時短を実現
- 「**45H以内・計画年休**」の遵守 対して ワークライフバランスの自分事化

